

いは茎葉を取除いて整理するときに、新球茎に傷をつけ、その傷が原因となって腐敗がおこることが多いから、掘り上げたならば、まず球茎の乾燥に努めることが大切である。一般的には、天気の良い日であれば穂わらか、むしろ敷いた上に並べて自然乾燥させるが、天気が悪かったり気温が過ぎるときには室内乾燥をする。室内乾燥は、茎葉を一〇～二〇本ずつ結束して室内に張った針金にかけるか、あるいは金網の土などがついていても水洗するようなことは適当でなく、かえって球茎が水分を含み過ぎて乾燥を悪くし、時期によつては凍害を受けることにもなる。

十分乾燥したならば、新球に付着している茎葉や、根、親球を取り除いて貯蔵に入ることになるが、この場合、これらのものを取除いたときに新球に傷ができるから、さらに四～五日乾燥して貯蔵するとよい。

●貯蔵

貯蔵条件の第一は乾燥であり、第二は低温である。すなわち常に乾燥する室内に置き、温度は〇度～三度程度の低温が望ましい。しかし一般にはこのような条件を与えることが困難であるから、風通しの良い網袋に入れ、気温が〇度以下にならない室内につり下げている。北海道では暖房をしないと室内の気温を〇度以上に保つことができないから、居室等の暖房している部屋を利用することも多いと思われる。この場合は、温度が高過ぎることと、乾燥が過ぎることになるから、量の少ない場合はダンボ

ール箱におがくずを入れその中に入れて〇度以下にならない部屋に置けばよい。

こうして貯蔵した球茎は、雪融けと同時に定植されるが、定植前に温度と湿度を与えて催芽してから植えると、揃いもよく、早く開花する。六月から七月にかけて定植する場合は、そのまま球茎を乾燥させておくと球茎内部の養分が消耗して定植後の生育に支障をきたすから、球根取扱専門業者

の低温貯蔵庫に委託貯蔵することが望ましい。自家製のムロなどのような貯蔵庫を利用する場合は、湿度が高く腐敗の原因になるから、月に二～三度外へ出して乾燥させるように心がけなければならない。

三 グロキシニアと

球根ベゴニア

どちらも夏の鉢花としては欠くことのできないものであり、保存方法さえ良ければ、何年でも栽培することのできる球根植物である。

●グロキシニア

球根の肥大は、日長・温度にあまり影響されず、肥培さえ良ければよく肥大する。

通常は実生で栽培するが、家庭で増殖する場合は葉挿や芽挿、球根によつても行なうことができるから、春に増殖し、秋に球根を掘り上げて貯蔵すれば、翌年はさらにすばらしい花を楽しむことができる。

グロキシニアは比較的高温多湿、弱光線下でよく生育する性質があり、北海道では九月中旬ころから生育がおとろえて十月上旬になると生育がストップするから、かん

水をせずに一五度前後の部屋に置き、茎葉が枯れたら球根を掘り上げて保存するか、あるいは鉢の中に植えたまま、掘り上げず

に春まで保存し、春になつたら植え替えることになる。

グロキシニアは高温性の植物であるから五度以上で保存するが、一五度以下であれば発芽してこない。したがつて、茎葉が枯れたら掘り上げ、球根に付着している根や土を落としおがくずの中に入れて室内の一〇度前後の所に置けばよい。おがくずの代わりにバーミキュライトを使ってもよいか。乾燥が過ぎると植付け後の生育に支障があるから、極端な乾燥はさけなければならない。

●球根ベゴニア

球根ベゴニアは一四時間以上の日長で生長開花が行なわれ、一二時間以下の日長になると、生長が停止して球根の充実が行なわれる。したがつて、長期間花を楽しもうとするときは、電灯のついている部屋に置いて、一四時間以上の日長になるように操作すればよい。しかしながら秋にはかなり草丈が伸びて、鉢花としては見苦しくなるから、球根を採取し、翌春植えなおした方が、形の良い鉢花を楽しむことができる。

良い球根を得るためにには、できるだけ長い期間短日低温の状態を保つてやることが大切で、期間が短かたり、日長が長過ぎる場合は、全く球根が形成されないこともあります。そこで、できれば黒ビニールか、黒い布を使って、夕方六時ころから朝の八時ごろまで遮光すれば、かなり充実した球根を得ることができる。遮光期間は二〇日～三〇日程度である。春に球根を植付けた場合は、遮光処理をしなくとも、前年よりも掘り上げに当たっては、かん水を停止し、茎葉が枯れてから球根だけを掘り上げるかあるは、かん水を停止してから四～五日たつて土が完全に乾いたら茎葉を付けたまま掘り上げてそのまま電灯のつかない部屋で、凍害のない状態（五度C程度）の温度で三〇～四〇日間放置すれば、球根と茎の付け根の部分に凹ができる（離層）。凹が大きくなつて、指で押しただけで茎と球根が分離するようになつたら、球根だけを取つて細根を取り去り保存すればよい。離層が十分にできていないうちに無理に球根をむしり取ると、貯蔵中にほとんど腐敗するから、特に注意を要する。

貯蔵は、二度～七度程度の温度と、ダーリアより少し乾燥気味に、グラジオラスよりも湿度を与えることで十分春まで保存することができる。

七度以上で、水分が十分あれば、いつでも発芽してくるから、低温貯蔵のできない場合は、多少高温でも乾燥気味に保存すればよい。球根は小さいから、乾燥が過ぎるとミイラになりやすい。

球根植物は、一般に栽培しやすく、急速な増殖を望まない限り毎年少しづつふえていくし楽しみの多いものであるから、収穫、貯蔵の基本的な技術を身につけて、それぞれの家庭や、環境に合つた貯蔵法を工夫してほしいものである。